



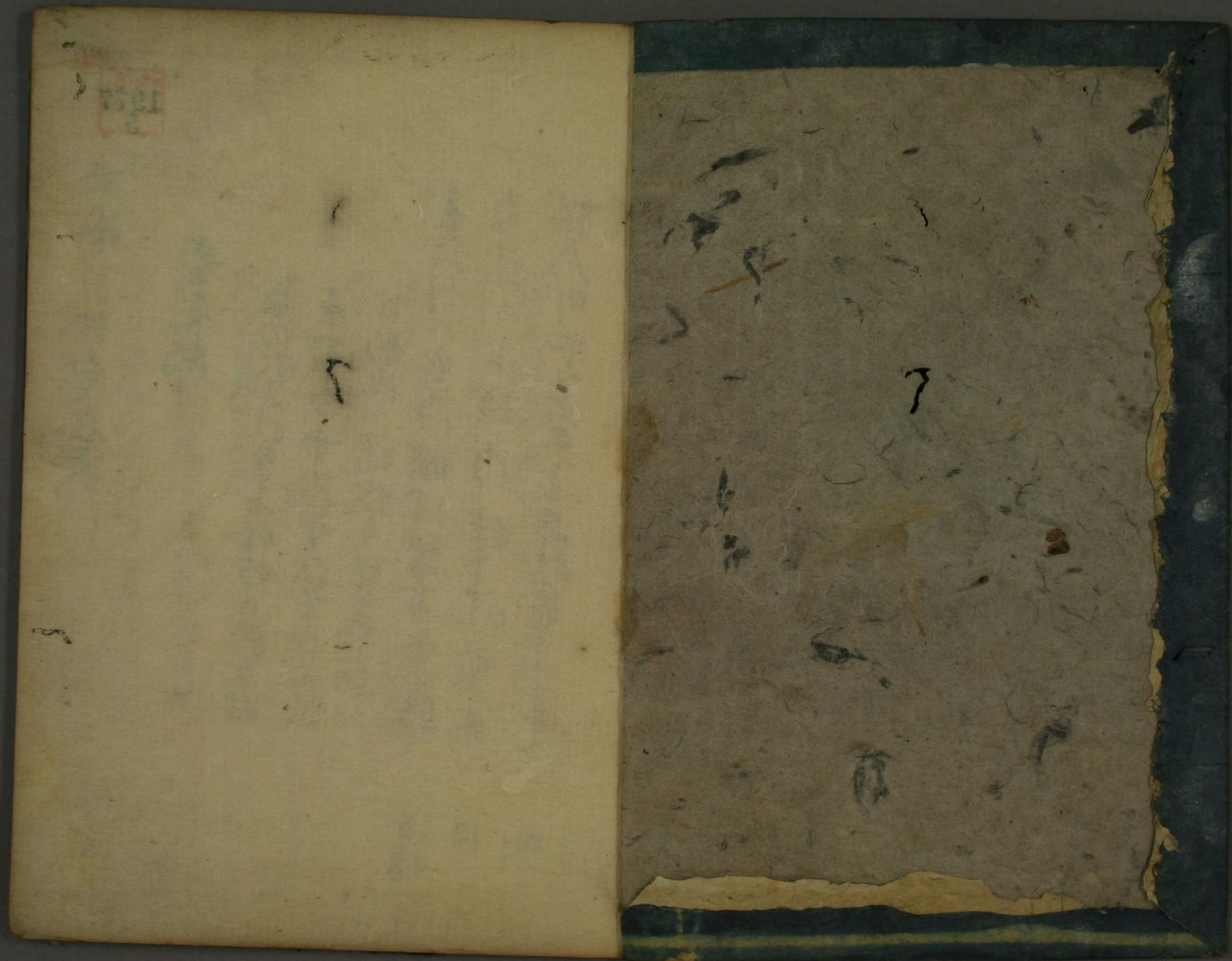
至海集 付の上

5
1977
5

Red seal impression

Red seal impression





1977
5



正徳集村白巻上

春入信

揚子早もあはれいふもたかやん
せしむるに露のしずかき日
あはれいふに蓋ふあはれいふ
あはれいふに海をわたるあはれいふ
あはれいふに山をわたるあはれいふ
あはれいふに川をわたるあはれいふ

目録



玉海集付句卷上

春之部



夜のたふれあふ住たりけり時
石おとる毎ふむすひて獨吟ふ

百韻はら祢たりけり翁る

また川ハ衣乃棚れかすかんう那

あふ祢う小路乃針れ永日

場乃町やち案よ馬れ血ととりて



貞徳

同

同

紹巴法橋の志るまひり連然れ
付るときとくろろこりあふさ
月才虫集めんといふとて
我うと虫扱たりいあひつて
打越のるより記してよ連款ハ
た打越の心とくろりてこそ
作者の誰養も又粉骨と
あふれわれとやふれり
老師たよ結るもいひと

耳に底ふらりたりたり
けなれ集ふはせん師は向とあやうら
打らりより記したるものなり
社年れはらりなりふともひたふ
まそてげ道よ長し路はひくふ
そ乃れとの名をいつたりあやう
ゆふれともうくしうとあや
あひなすてふらりたりたり
とよ今け集ふはせん師は向

大なる程はよりせせてあきり
路はひくともうくしうとあや
あひなすてふらりたりたり
あそかひらせてと付たり
うらひとハ唯琴款のよまま
躍けまふけすは先鋒ふ
花んを勸学院の園よまそて
志りあうくしうくしうとあや
御階よ釘のさきや出けむ

貞室

貞徳

貞室

花やうれ勅書ひらけハ針此文字
貞徳

灯心とやそくして詩書此書よ
日

跡重あれはあうとて庭路入
日

かゝ木丸ふ山とらふか味をひて
日

のせつノ香炉乃盤此よりさよ
日

正月乃もちといふふはめてたや
日

去年ハゆききし齒を此より
日

なまけとて具是乃袖は汲糸
日

よくこそいといふ廿日正月
日

琴とこさうとや太鼓うと
日

藪とのととりあそりす花の法
日

鶴さうふふと大船やたてぬめり
日

遣唐使もと出まふかかい瘡
日

葉大豆や花乃葉葉めり
日

詠めたるや大嶺乃月
日

前鬼とと花乃都へたまき
日

身とあふふはされいかりなり
日

身とあふふはされいかりなり
日

花入よ志川花と氷とうちらそき

和歌郡山都茂
云成

梅のあさりいふひゆらん

とん福んとここののよひ言ふ似て

日

いとゆふにしもつきてまよふ

蝶々柳さくらさくらよとひうり

濃島山端氏
葵哉

花乃もとたらつてゆふの夕言

物連よの浅ハ志まよふ宗近

日

常もかんなや寐くもやたつねえ

うのー極たり庭乃紅梅

日

まのまの乃梅よといぬあらしふ

難波人むくらに眩とる乃比

大坂本持氏
重順

愚判

妻乃清瀬ハいふよ鹿相子

洗子よふさるる取茶乃魚れし

重利

行いあふ湯乃うきまてくる

かくらん目志あふよ花とらるる

濃島山端氏
葵哉

さくも下まげふ團扇のせんさ

へてもてさうぬひあふよ山さくら

郡山池田氏
正式

天氣のそけきけふ乃ハクウ

官軍ハ花乃アキミレ旗ニシテ

春日野に尾籠る玉と捨てたり

若むくさき乃すりこ木の枝

花乃波にゆき声もひきき

若咲陰より志ありさうりり

すの物と立ぬひぬり笑ひく

松乃そんがらふハエツから

さくらくとゆもわりのハもあじ

日

日

未友

道諄

秘藏よにれよ庭乃えれの枝

幕さつれ花よたふれ舞をまひ

胡蝶飛りよころれ野わさひ

景ハアハれ雪よ花ハ幕つ

大さうつさ乃むさう野のま

清さきに咲出の花ハやらみと

辨才天氣のころがなれをら

老山のあもをね乃よまみ

吹けらかりや鳥よものさう

熊野那智住
如海

播磨姫路住
交云

之れ三井住
梅盛

播磨版見住
頼重

太後橋住
保友

去るやうにさうとてすまらぬ

去年より色濁ぬわら井戸の水

越前福井山氏
文清

洗濯衣乃紅粉けかすめり

越前福井住
吉昌

去年より色濁ぬわら疱瘡のやま有り

心のとうふもれとあんす係

播磨吉田氏
勝政

去乃目れらうもあす連帯て

互つらうやうるれ自乃あり

小便ハせ縁とも色門乃ねさうり

教習野味氏
定利

いそげくともとめくね言

明日ハちらん乃いさ行てま生れ花

京本茶本氏
宗真

まうひふ本乃葉天物とわら

花よあらふ枝乃さえこの穢の尻

惠佐

か舟乃さとりさきそめてたき

赤よいらる花ハ清成此用言て

符類屋
政信

年と目と此翼乃色うらな

さくハ色理乃むめ乃えさく

青地氏
可頼

思がるもさうかよと一なりか

物の作ふ花あらせん色作れ清悪

日

人形をいしてうすうすの目
かすめくは七年乃とい目れ徳言ふ

日

回らへ乃まねとすりまねを
ち深めと常盤浦前とめてす

隈先

まろくめ初とて富とめまろく
まろく乃急とまろくつおむく

季吟

ひめとせれ花より外の御も
まろくめ初とて富とめまろく

日

信り捨たるとゆくとんすり袖

宗真

花鳥乃巢ハ何人かまろく

正章子
元次

海老れそや伴勢の清く花れ鏡餅
とととととととととととととととと

貞室

正章母三十三回忌追善
散一木母とあみと一鉢陀佛

日

ありえとてまろくに餅花れま
躑躅はく山後たをくかろく

日

万葉系乃木はく足乃考

うゝ〜ろ付も翁く〜り八七采とて
日

夏之部

屍やそれやろれ親やすらり
靴子乃酒とのむぬ月 園
くろくもてう〜早苗の穂糸七
冥途よて落す 洞や志げかん
夏そのいとせふなく〜き次
油断して極田の比とす〜すまよ
日

貞徳

阿部氏のなふり〜郭と

名付てむ〜たまふめは

業つふと〜て一む〜

よ〜一あらせ〜きけりなみ

名のれ名とあ〜へきつふそ郭と

あ奄たちとれ乃ふりよ前裁

清明く〜た松ハ枝ありて

つる〜て〜も女猫〜

は花ちれ屋の牡丹の花さ〜り

貞徳

日

日

日

啼—このかきりさむもあま有
とりよ正章あむよそあや—

脇白

一にきりあわゆるなち乃云

日

先師孫

文衣乃里ハあきそさひ—

卯月多川目と人垣たよ志海気

可頼

乃ろくも時とあま坊まめて

畠よまひあ子乃実そあは

正心
紀列揚備

あは柳乃昔ハあえ

道野意乃清水たうささう兼

まれあまハ今う同—其茶碗

あははく—てももの心あ葉散

貞辰
中嶋内務臣

愚判

あつらや福地乃園れ富美あ

白胤出る庭乃な川かけ

惠佐

あつらあまハ今う同—

卯乃くまを家のくろり極玉て

定利
敦賀縣内氏

愚焼ふきてもとよりやむき味

郡山池原

百さうとやほかこもる乃あり

正式

あふ粒忽とみゆりあふり

若類屋

まひとてあまらよは縁さす牧屋内

政信

おれ敷の声よあけい宿房れ戸

掘の上長門

口たぐ柳れ水鶴人よりあて

保友

目出度るり乃すのたくれと

播磨垣内氏

いよまき山楸やりわく人

史玄

親と子とあらうこらうへひききて

河内と井田源

あつし扇子の不福やといあふ

長徳

十六りんいわるすすかれちむ

まじ地氏

うさ縁ハあ定喰くは見えま

可頼

ひこちあひいさも尋者より引て

貞室

田とよをけられ玉りきあし女

あつらまわ時とんるる若楓

を从乃啼とを配あきき

日

賢列大橋氏可理と云人乃

教白よ

天乃時ふ地れ利ふ志うね水室片
人乃ころるよ和して涼風

日

秋之部

おもひ乃かうよ酒はうれたり
親よよくあさるる人の暮れ若
ちいさき志うね矢ふりてるるえ
三ヶ月いさふりてふきき眉おぼて
柳乃木間出ま来侍初秋

貞徳

日

門口は極しや早稲乃米ふらん
月夜のむしの腹よこそあけ
細う移たあとうるくおちてきて
まろく乃山れあき乃大風
月かけよきなかへ侍内太舟
そくらととらふ輝乃夜普鏡
お体とふさいうやあす乃紅葉指
とつりつてく膳も少くれ次
雅めとた侍と志うね念のおき

日

日

日

日

日

めつらひきしやあさうのきこれ歌 日

沖葉入はつらつきとこそみえよくれ

とく一窓申してかほ草乃葉 日

あわて月あそとゆり空津の山 日

花火れくすはるもく繪畫すり

雲く一秋の野原乃屋あま 日

ひんしきとうく心長き花はき

鶴鶴乃尾れさゆ秋乃野 日

名水の能務措かは肉

日

老曾れ森下り遠返をせん

月夜もを過すまひそよ不破此園 日

伊吹抄りもあまあまあ小袖 日

いにたりふとや志わうま乃下

湊磨乃浦すまあなれぬあ月あふ

あーれ月よ志とそこらぬら 日

先師歌

あながしとかないふねんかといふや

志よすきとれを海までたけ

郡山郡民
云成

まきとくしんは秋のあけやちのりや

栲列大徳住

重頼

月清の秋のあけやちのりや

とどろくあけやちのりや

中嶋内蔵住

貞辰

むすぶあけやちのりや

愚判

セクは秋のあけやちのりや

敦賀縣民

定利

初秋の暮會のあけやちのりや

蚊のあけやちのりや

名類産

政信

あけやちのりや

飼ぬり鳥とにうすあきこれ

遠列梅水氏

吉清

月清のあけやちのりや

あけやちのりや

栲列大徳住

宗清

あけやちのりや

あけやちのりや

勢新福住

竹雪

平砂のあけやちのりや

あけやちのりや

秋のあけやちのりや

屋瓊

あけやちのりや

初よ出ら若をたうらうの舟あそび

大塚橋出

保友

出ら若をたうらうの舟あそび

平尾小舟

華以

少のつらう一河此鹿の美はあり

夕よよきつらう秋乃出かつり

郡山池田

正式

名月よ入日のかけをあそびけれ

隣つらうれさの光あらしむ

勢利寺念寺

昌杞

ゆふふふあそびやあそびあそびん

小頭かたけて月そなたらむり

懐文よ思ふ来出乃あそびれ

日

あつがんとよそそ涼系乃望

三池氏

可頼

まあてみりかゆれ宿乃月

煙とたてははる勝線波

日

取じすよ相撲の場てのむなき

せとせとあそびわら若芳さそを

恵佐

あ海乃月よ陽るさ湯曹子

あそびあそびあそびたらひよ秋は水

日

あそびあそびあそびあそびあそび

秋の夜よもあそびあそびあそび

薄乃名乃んとかうけよまどひろけ 季吟

あさりともうらひとをら祈り抱

志よやぬれ川ともうた家よ猶もき 日

露をせやくせすむ矢おもて

冷ききあひくせとのくしられ 日

老病やあまたのそなくみえん

志わけて糸ののちり物かか 貞室

秋とてや律儀とらる風のそと

何とうしてもあすもれつた 日

月さしうけりる床乃かろ紙

備馬糸乃律れくくまきよきて 貞室

土鯨魚のちちありくえうもれ

鯨尾乃刀と月よあこたへて 日

いうらり挟まふ海乃面あり

つかり乃よまみゆ白月かろ 日

天冠乃かろよませり菊は花 日

天長く千ひと春海や妹は月

少くもまんのとまればゆふあ 日

玉虫やまじう白粉のたは家
 かひつけ蜻蛉あそぶ秋乃野
 かりうよ涙せしきあそびて
 かけはうつらうゆゆらさ
 夜とちあハ腹りあらうよ
 初かり此啼わされるをけりて
 るひくあそびにみゆの本飛
 九列の地よりあそぶ秋の風
 家そらあそびけりねとよと

日
 日
 日
 日
 日
 日

秋風のあけはあそぶ琴此塔
 蟹のやうよ秋山たぐくのわり
 うほしれもみくらまらともみん
 大酒よ酒神なくと給あひて
 基盤もくくよあそびとらめり
 髪そらあそびは月やあけねん

日
 日
 日

冬之部

暮りてあそびとらめりあそびて

ひのたさうすしするや相とあり

池水の月まうけりたるけりけ

貞徳

深きもやふれて後ふさるるん

を根より介し古家乃りうせ

森むしるものおどぬ時多の木葉まで

日

とよひのひら八十八粒とまゐるん

茶園とそれとあお抄りいせり

日

顔がらととら此髪うらひして

せよとらとらとらとらとらとらとらとら

日

先作熱

かふふそのいともあつてあつて

濃烈温氏

そよよくと若のうれ葉は風とえて

葉成

ゆくはきくもあつてあつて

播列温氏

あつてとつ下野されとあつて

変云

愚判

まはれとまはれとまはれとまはれと

播列温氏

とらつめし源谷代庵乃あつて

重香

例よたつひてぬらわえり

はるの腹乃のりんもさあつりす

播磨三平井氏 正重

秋もくれぬと敷くそよふくれ

そよふ小菊ハすのこそと枯果て

但列生野古肥氏 雪之

雪よまわらめもこころりく

利發さうふ殿ハ鷹さうふ小居て

惠佐

大雪ありにと海りさあ

播磨三平井氏

おろめそとつひもすうた寺米て

のりもつめさあそ丹波

飯乃若れむひくとなさう若乃日小

播磨三平井氏 勝盛

おあさぬ花んれや下んる海

大は攝山氏

おりーろさあさく糊きあのそ

保友

あすれも床とさあしりさあ

あつげなく降也鉄炮乃玉阿れ

重利

鶏乃まのやひさおつすん

児玉三郎共氏

え方へまのりさあさあ

貞利

多れうねりひあつせうまめ男

まは地氏

爺さうい寝た中しくの事

可頼

室の巾日走山よりちのあり

酒せめらまてみるやあかり

季吟

あきとく幕のまゝ乃風うあ
氷乃泥ハ月よりむらくも

貞室

山城ハ雪とくわこ乃の海り外
河内乃川やこほろを乃日

日

へてゆえそ乃雪山乃雪れ声
とまり雁野ハ草外もせす

日

若火たくくあやちたぐゆん
あぐりささひあすけさひすり

日



七卷雨

